

酒屋さんと肥料屋さん

全国の酒屋さんの数は約35千社（令和5年4月1日現在 全国小売酒販組合中央会の会員数）となっている。NHK放送文化研究所によると和菓子屋、呉服屋、金物屋のような「〇〇屋」は「小規模、家族経営、独立店舗で近所のコミュニティーに含まれるというイメージがある」そうだ。全国各地の「酒屋」も「肥料屋」も近所のコミュニティーの一員として、その地域に貢献してきた長い歴史がある。

しかし、酒類販売の規制緩和によるコンビニやスーパーの新規参入により「酒屋」が厳しい販売環境となって久しい。その後の消費者の購買志向の変化や飲酒による健康問題等による「酒離れ」とともに、「酒屋」事業主の高齢化や後継者不足もあり廃業も増えてきているようだ。我々「肥料屋」と同じような問題を抱えている。

「酒屋」ではこのような状況を打開し、生き残るために様々な提案がなされている。

- 1、 消費者ニーズにあった各種お酒の提案。
- 2、 店頭で目立つPOPを活用。
- 3、 店棚の商品構成の見直し。（ハイボール等の流行の先取りやこだわったお酒に重点）
- 4、 冷酒（日本酒）の充実とその対応の為の冷ケースの配置。
- 5、 ネット販売等のEC販売チャンネルを始める。

など。どの提案も「肥料屋」の肥料販売に通じるのではないだろうか。

「売れない理由探し」は必要だが、お酒のように「売る仕掛け」をどうするか肥料メーカー、商社、卸商、小売商ともども考える必要がある。従来使っていた肥料の販売も大切であるが、生産者のニーズにマッチした肥料の提案を先ず考えないといけない。

この春肥において良質な堆肥メーカーは出荷が間に合わないほどの忙しさだったと聞いている。農林水産省の「みどりの食料システム戦略」と「肥料価格高騰」により生産者の肥料購買志向も変化してきていると実感した。またPOPやネット販売を積極的に取り組むことも新規の販売チャンスにつながるだろう。そのような仕掛けをしている「肥料屋」は新規顧客を掴み、販売を伸ばしている。

着物離れで販売が低迷していた「呉服屋」がインバウンド向けにレンタル着物を始め、V字回復したとの報道もある。人手不足によりセルフのガソリンスタンドが増えているが、洗車に特化することで広域から集客しているガソリンスタンドもある。

生き残り、繁盛している「〇〇屋」のような他業種にも目配りし、取り入れられることは取り入れ、「生産者」と共に我々も生き残らなければならない。

肥料、農薬、種苗、生産資材、出荷資材など農業に関わる必要な資材はJAやホームセンター等多様なルートで「生産者」に販売されている。どこから買うかは「生産者」が決めること。故に「餅は餅屋」という諺の如く、生産者のニーズに応え、頼られる「肥料屋」でないと生き残れない時代になってきているのではないだろうか。我々商社もそれに応えないと生き残れない。

～こうもりとグアノ～

哺乳類は、地球上に約5,000種存在するとされています。その中でこうもりは約1,000種存在しており、世界中の多数の生態系の中で大きな位置を占めています。こうもりと聞くと、皆さんどのような印象を持たれるでしょうか。なんとなく悪いとか、怖いといったようなイメージを持っている方もいらっしゃるでしょうが、大半のこうもりが花粉や花蜜、果実、昆虫を食べて暮らしています。こうもりは特異な哺乳類であり、鳥のように自力で空を飛ぶことができます。他の哺乳類には、ムササビやモモンガ、ヒヨケザルなど、高い場所から滑空する能力を持つものがありますが、空を飛ぶことができるのはこうもりだけです。こうもりの多くは夜行性であり、日中は休息します。しかし、一部のこうもりは昼行性であり、昼間に活動します。彼らは鋭い聴覚とエコーロケーション（反響定位）と呼ばれる能力を使って、暗闇の中で獲物を捕らえます。

（次ページへ続く）

(前ページより続く)

日本国内には約35種類が確認されており、全ての都道府県で生息しています。各都市で確認された種類の数が、札幌市17種、仙台市13種、広島市、福岡市ともに7種、名古屋市、東京23区がともに2種となっています。全国で札幌市が一番多様なこうもりが生息しているということには驚かれると思います。

また、北海道内では、実に20種ものこうもりが生息しているという調査結果も残っています。



こうもりは、世界中の文化や宗教で様々な象徴や意味を持っています。以下に、いくつかの文化におけるこうもりの象徴や意味を紹介します。

中国や日本などのアジアの文化では、こうもりは幸運や繁栄の象徴として扱われます。こうもりの姿が描かれた絵画や工芸品は、豊かな未来や幸福を願うシンボルとして使用されることがあります。一方で、西洋の文化ではこうもりはしばしば吸血鬼や死の象徴と結び付けられます。特に吸血鬼の伝説では、こうもりが吸血鬼の姿として描かれることがあります。このようなイメージは、ゴシック文学やハロウィンの文化的影響によって広まりました。また一部の文化では、こうもりは神聖な動物として扱われ保護されてきました。例えば、ヒンドゥー教の神々の一柱であるハヌマンはこうもりの姿で表現されることがあり、オーストラリアの先住民の文化では、こうもりは霊的な存在として尊重されています。

こうもりは生態系において重要な役割を果たしており、彼らは多くの植物の受粉を担い、害虫の制御にも貢献しています。また、彼らの排泄物は肥料としても使われます。こうもりや海鳥などの鳥類が集団で生活する洞窟や岩の上などで堆積した排泄物のことをグアノといい、消化した有機物やミネラルが豊富に含まれています。グアノには、主に鳥類グアノとバットグアノの2種類があります。

鳥類グアノは海鳥が生息する島や岩の上などで堆積したもので、主に窒素、リン、カリウムなどの栄養分が豊富に含まれています。これは古代から肥料として利用されており、特に南米のペルーではインカ帝国時代から現代に至るまで重要な農業資源とされてきました。

一方、バットグアノはこうもりが生息する洞窟などで堆積したもので、鳥類グアノと比べると窒素やリンの含有量は低いものの、他の有機物や微量元素が多く含まれています。これもまた肥料として広く利用されており、特にアジアやアフリカではバットグアノが古くから農業に利用されています。また、バットグアノは一部の地域では重要な経済資源となっています。特に南米の一部地域では、こうした自然の恵みを利用しています。このような地域では、こうもりの生息地を保護し、バットグアノの採取を持続可能な方法で行うことが重要です。一方で適切な管理が行われない場合、バットグアノの採取や利用は環境に悪影響を及ぼすこともあります。

こうもりの生息地を乱すことで生態系に影響を与える可能性があるため、持続可能な管理が求められます。
(札幌支店)

今年は梅雨入りが遅いようです。ジメジメジトジトも嫌ですが、あまり雨が降らないのも困りますね。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>